

同志社よ、その名は一つの目的を意味する

ONE PURPOSE

【同志社人訪問】 読売テレビアナウンサー 中谷 しのぶさんに聞く

2023 Summer | Vol.210

巻頭企画 [リーダーに訊く]

株式会社ファンケル しまだ かずゆき
代表取締役社長 執行役員 CEO 島田 和幸さん



技術の進歩がもたらす、無限の可能性に立ち向かう。

AIが開く未来の扉



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY

同志社は2025年、創立150周年

150年の #2人物 歴史をたどる

History of DOSHISHA

「温故知新」。未来
への挑戦の指針

を学びとるべく、積み重ねてきた歴史をたどる。同志社は新島襄を中心に、幾多の困難を乗り越え、志を同じくする人々の祈りの中から誕生しました。「150年の歴史をたどる」第2回は、同志社創立にゆかりの深い人物を紹介します。

INDEX

- 02 150年の歴史をたどる #2人物
- 04 巻頭企画 [リーダーに訊く] 株式会社ファンケル
代表取締役社長 執行役員CEO 島田 和幸さん
- 08 研究の最前線 理工学部 土屋 誠司教授
- 10 DOSHISHA DNA
株式会社Aill 代表取締役CEO 豊嶋 千奈さん
- 12 DOSHISHA DNA
株式会社テラバース 代表取締役CEO 古屋 俊和さん
- 14 データでみる同大生の 2022年度 就職状況
- 16 2023年度 大学予算
- 17 2022年度 大学決算
- 18 ゼミで学ぶ 魅力を語る
- 20 本学教員の執筆図書紹介
- 21 同志社人訪問 読売テレビアナウンサー 中谷 しのぶさん
- 24 My Purpose 挑戦する人 森口 澄士さん(商学部商学科4年次生)

「一国の良心」となる

人物の養成を目指して

日本の将来を憂え、国禁を犯してまでアメリカへと渡った若者がいました。彼の名は新島襄。同志社の創立者です。1864(元治元)年6月、新島は21歳の時に函館から密出国し、上海にてアメリカ船ワ

1815-1887

A. Hardy

アルフィーアス・ハーディー

新島が渡米する時に乗船したワイルド・ローヴァー号の船主。新島の「脱国の理由書」を読み、感銘を受け、物心両面にわたって惜しみない支援を与えました。新島がアメリカの父として慕った人物です。



1875(明治8)年に開校した
同志社英学校最初の校舎

お知らせ

「ONE PURPOSE」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

卒業生の住所変更、発送停止を希望される場合の連絡先は以下にお願いします。
校友課 TEL: 075-251-3009 MAIL: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

イルド・ローヴァー号に乗り換え、約1年後に、ボストンに到着しました。ワイルド・ローヴァー号の船主A. Hardy氏は、新島が海員ホームで書き上げたという「脱国の理由書」を読み感銘を受け、自身の母校であるフリップスアカデミーや理事を務めていたアーモスト大学に入学させるなど、物心両面で新島を支えました。

新島は、アンドーヴァー神学校で神学を学び宣教師の試験に合格後、日本でのキリスト教の学校の設立を訴え、5,000ドルの寄付の約束を得て帰国。その後、大阪で学校設立を目指しましたが、キリスト教教育を認められず、京都府顧問に相当する役割を果たしていた山本覚馬らの支援を得て、京都で学校設立を認めてもらいます。しかし、保守的な人々の反対を危惧した京都府からの要請を受け、新島は学校で聖書を教えない条件を飲む形で、同志社英学校を開校しました。当初の教員は校長の新島とアメリカ人宣教師J. D. Davisの2人、生徒は8人でのスタートでした。新島はその後、私立大学の設立を目指して邁進し、英学校中退後、ジャーナリストであった徳富蘇峰の協力を得て「同志社大学設立の旨意」をまとめ、全国の新聞に公表します。そして新島の死後、彼の宿志を受け継いだ教え子たちが、ついに同志社大学設立に至りました。

同志社は、現在、幼稚園から大学まで約4万1,500人の学生、生徒、児童、園児の学ぶ一大総合学園となっています。卒業生はおよそ36万人を数えます。この国の未来を創るために。新島をはじめとする先人たちの思いを受け継いで、これからも同志社の歴史は続いていくことでしょう。



1843-1890

創業者 新島 襄

1848-1943

D.W.Learned

ドウェイト・ウイットニー・ラーネッド

同志社発展に貢献した一人。新島襄の志を支え、半世紀にわたって同志社で教壇に立ちました。京田辺校地の「ラーネッド記念図書館」に名前が残され、彼が愛した言葉「Learn to Live and Live to Learn」が建物に刻まれています。



1828-1892

山本 覚馬

京都府議会議員(初代議長)として初期の京都府政に貢献。新島の同志社英学校設立計画を知り、旧薩摩藩邸の敷地を学校用地として新島に譲りました。「志を同じくする者が集まって創る結社」から「同志社」と命名した人物です。



1863-1957

徳富 蘇峰

「同志社大学設立の旨意」は1888(明治21)年、同志社英学校の創設者である新島から材料の提供を受けて、徳富蘇峰が内容を考えているといわれている。新島が永眠する際には、一切の遺言を蘇峰が筆記したといわれています。



1838-1910

J. D. Davis

ジェローム・デーモン・デイヴィス

アメリカ人宣教師で、同志社英学校創立時の教員の1人。神戸で宣教師として活動していましたが、1875(明治8)年、同志社英学校を開校する新島を手伝うため、京都に移り住みました。





株式会社ファンケル
代表取締役社長 執行役員CEO

しまだ かずゆき
島田 和幸さん

1955年広島県生まれ。79年同志社大学法学部法律学科卒業後、ダイエー入社。創業者の中内功氏の秘書などをつとめた。2003年ファンケル入社、07年取締役。17年から現職。

「未来の肌」のリスク情報提供

ファンケルは2022年9月、AI技術を活用した新しい肌のカウンセリングサービス「AIパーソナル角層解析」を開始した。皮膚表面にある角層細胞の「かたち」を認識するとともに、「タンパク質」の量を推定するAIモデルの開発に成功し、数理モデルと組み合わせることで、1枚の角層画像から皮膚のさまざまな生理情報を知ることができるようになった。角層細胞から、皮膚の内部で誕生した細胞が約1カ月かけて皮膚の表層に移動しながら代謝した細胞の状態がわかる。

「お客様の頬の写真データをAIで解析して、肌の現在の状況と未来のリスクの情報を提供します。肌のたるみは人ひとり状況が違いますし、シワが顕在化するかもしれません。未来の肌のリスク情報を提供し、スキンケアを提案していきます。このサービスは他社には例がなく、お客様のお悩みの解決につなげ、喜んでいただけたらと考えています」

ファンケルは1980年に創業し、無添加化粧品通信販売を始めた。現在も通信販売と店舗販売の両方で顧客とつながるビジネスモデルが強みとなっている。顧客との直接のつながりから得られる豊富な顧客データを事業戦略に生かせるためだ。

「お客様がいつ何を検索したかといった閲覧履歴から新商品などへの関心度がわかります。これまで商品の販売予測は、過去のデータ、経験、ノウハウなどによって行ってきましたが、顧客データを使ってAIで解析できるようになりました。1990年代半ばから電子商取引（EC）による販売を行ってきましたが、今後はもっとデータを活用していきます」

AI Revolution

ChatGPTに代表される、誰でも使えるAIの登場で、社会は大きく変わろうとしています。生活や仕事における利便性が高まり、様々な社会課題の解決に期待が寄せられる一方で、個人情報や著作権をどう守るかなど新たな課題も出てきています。AIで広がる可能性と、AIとの共生に必要な素養について、企業トップや教授、若手OB・OGにインタビューしました。

AIを活用した顧客データ分析 顧客との「絆づくり」に生かす

ファンケルは、AI(人工知能)を活用した肌のカウンセリングサービス「AIパーソナル角層解析」を行うなど、AIやデジタル技術を駆使した新たなビジネスの展開に注力している。

コロナ禍で強み再認識 「顧客との直接のつながり」

2017年にファンケル社長に就任した。19年までの3年間は順調に売り上げを伸ばしていたが、20年に入ると予期せぬ事態に見舞われた。新型コロナウイルスの感染拡大で、20年4月に緊急事態宣言が発出され、1カ月半ほど直営店舗のほとんどが休業した。店舗販売は売り上げ全体の約3割を占める。コロナ禍で中国からのインバウンド需要も見込めない状況が続いた。

コロナ禍で売り上げを支えたのが、いつでもどこでも注文や購入ができる通信販売だ。現在、通信販売では、売り上げの8割がインターネットを経由するECが占める。コロナ禍は、ECをはじめとするデジタル関連分野に注力するきっかけにもなったという。

「店舗で購入されていたお客様に対して、『ECもお試しください』と通信販売へ誘導しました。実際にデータを見ると、通信販売と店舗販売の両方を使いこなしているお客様は、ライフタイムバリュー(顧客生涯価値)が高いことが確認できました。マルチチャンネル化を進化させて、OMO(Online Merges with Offline)としてオンラインとオフラインをうまく融合させていこうと考えてきました。お客様との絆を大事にすることにこだわりながらファンケルらしく、OMOを推進しています」

「ファンケルらしいOMO」をつくる

2021年度にスタートした第3期中期経営計画「前進2023〜逆境を超えて未来へ〜」では、「ファンケルらしいOMOの推進」を掲げる。

「通信販売と店舗販売のデータをフルに活用していきます。いつから購入されているか。いつ何を購入されたか。どんな商品をリピートされているか。WEBサイトではどんな情報をご覧になっているか。こうしたデータをどのように当社からお客様に対するアクションにつなげていくか。その入り口として自社にデータがないと何もできません。当社の強みは、『直接、お客様とつながっていること』であると改めて気付きました」

「ファンケルらしいOMOの推進」に向けて、顧客の新たな体験づくりに挑戦している。顧客の気持ちや心情に対してファンケルとして何ができるのかを考え、顧客の「体験価値」を最大化していくという。カギとなるのが年間300万人の顧客の利用データだ。

「自社で保有するデータの量が多く、今後、いろいろな使い方ができると考えています。AIを使ってお客様一人ひとりに合った情報、お客様にとって興味や関心のある情報を届けたいです。お客



様にふさわしい情報を届けることがお客様との絆になります。そういう思いでビジネスを組み立てています。300万人のお客様に向けて情報を発信するためにはAIの活用が必須です。また現時点では、目標に対して30点。合格点の70点、80点をとるには、5年ほどかかると思います。AIやデジタル技術をうまく活用することで、お客様が求めている情報を届けます」

変化を受け止めて進化する

「デジタル人材」の育成にも注力している。

「どの分野の仕事であってもデジタルの最低限の知識は必要です。ITリテラシーに前向きに取り組んでいきます。2020年の年末に情報処理技術者の試験の一つ、国家資格の『ITパスポート』を取得しました。私が社内ですべて最初に取得し、社内の取得者は現在約400人に上ります。役員の85%、部長以上は半数、課長以上では3分の1以上が取得しました。総合職の新入社員の一部は、入社から2年間ほどは、デジタルにかかわるビジネスを学ぶことができる部署に配属するようにしました。デジタルをはじめ専門性を複数持つてもらいたいと思っています」

経済や社会のデジタル化で世の中の変化のスピードが速くなっていると感じているという。

「今の時代は、変化を受け止めて進化することが大切です。5年、10年と仕事を続けると自分のスタイルが出来上がってきますが、時代の変化にマッチするとは限りません。会社の方針が変わったりお客様が求めることが

変わったりした時、苦しいけれどその変化を受け止めてこそ進化できるのです。そのためには、ふだんから意識して変化を受け止める力を持つようにしたいですね」

「芯になる」経験積んで

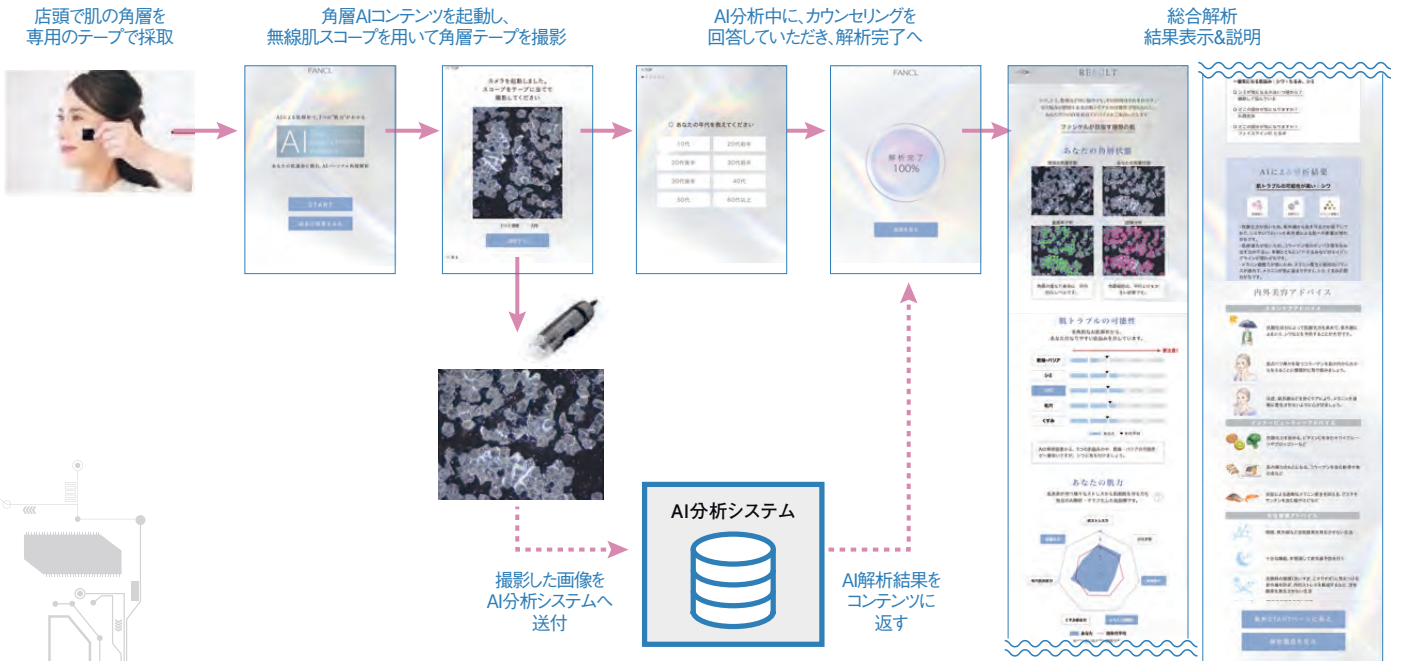
1975年に同志社大学の法学部法律学科に入学した。大学時代は、混声合唱団のサークル「こまくさ」の第8代会長を務めた。2019年12月に京都市内で開催された第50回の記念演奏会を夫婦で鑑賞した。

「同志社混声合唱団こまくさ」に入って4年間、歌漬けの毎日でした。当時は70人から80人ほど在籍していました。合唱はみんなで協調して一つのものを作り上げます。パートは違っても一つの曲を一緒に歌い、パートごとに役割があります。私はテナーでした。うまい人もそうでない人もいましたが、芯になる声があつてそこにみんなが声をのせていくのです。春先から12月の定期演奏会までずっと練習して歌っていました。とても楽しかったですね」

同志社大学には、ステークホルダーとの絆づくりを期待する。学生には、チームワークやリーダーシップも



【「AIパーソナル角層解析」サービス全体の流れ】



角層から得られる
その人だけの
肌の情報を解析する
直営店舗限定の
サービス



経験してほしいと考えている。

「学生、教員、OBやOG、地域社会といったステークホルダーとの関係を大事にしてもらいたいです。対話を通して信頼、共感を得ることです。みんな同志社が大好きです。愛される大学なのだから、ステークホルダーと絆を作ってもらいたいですね。大学生は、いろんな経験ができます。社会に出る前に自分の芯になるような経験ができると思います。できれば、チームワークやリーダーシップも経験してほしいです。グローバルな体験や文化に触れることで感性をみがぐこともできます。これから新しい人に出会ったり家族も増えたりします。明るく前向きに頑張ってもらいたいですね」



研究の Forefront of research 最前線



人間とAIが共存できる 社会を目指して

同志社大学 理工学部 インテリジェント情報工学科
人工知能工学研究センター センター長

つちや せいじ
土屋 誠司 教授

2000年、同志社大学工学部知識工学科卒業。02年、同志社大学大学院工学研究科博士前期課程修了。三洋電機株式会社(後にパナソニック傘下)研究開発本部に勤務後、07年、同大学院博士後期課程修了。徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助教、同志社大学理工学部インテリジェント情報工学科准教授を経て、17年より現職。主な研究テーマは知識・概念処理、常識・感情判断、意味解釈。著書に「はじめてのAI」(森北出版)「AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ」(創元社)など。AIに関するセミナーや講演は数式が一切出ない、やさしく分かりやすい語り口で好評。

『常識』を持ったAIを創りたい

対話をしたり、絵を描いたりする「生成AI(人工知能)」の登場で、いまやAIは技術者や開発者だけでなく、誰もが使える時代になった。技術の進展に期待が高まる一方、情報の流出や悪用への懸念は強く、不安を覚える人も少なくないだろう。その行方が不透明な中、理工学部インテリジェント情報工学科の土屋誠司教授は、「AIは今が学び時」と言い切る。「当たり前前の技術になり、AIという言葉をあえて強調して使うことはなくなるでしょう。教養として、もう知っておかないといけない時代なんです」。そう語る土屋教授が、人間との共存を目指して研究しているのが、『常識』を持ったAIの実用化だ。

土屋教授の専門は自然言語処理。人間が日常的に使う言葉を統計的に解析できる数値に変換することで、コンピューターが理解できる形にする深層学習分野の一つだ。言葉から相手がどんな感情を抱いているかを読み取る「感情予測」がメインテーマで、研究室では一つの単語の意味を複数の単語で表現することで、コンピューターが人間のように「連想」できるメカニズムを構築している。これを使って、言葉が使われるシーン、発話者の性別や年齢層、地域や時代などを加味した「常識的な」対話ができるシステムを開発しようとしている。

「どんな便利な新しい技術だけでなく、障がいを持つ方や高齢者、若年層を補助する技術を提供するのもAIの本来的な姿だと思っています。効率一辺倒ではそれは実現できません。一人ひとりに寄り添える技術とするためには、やはり『常識』が必要なんです」

人によって微妙に異なる「常識」を評価するのは難しい。そ



小、中学生向けの「教養」としてのAI入門書。「より“人間らしい”生活を送れるように、AIと共存するための道筋を示したい」

もそも1億2000万人程度しかいない日本人は、世界的に見ればマイナー。語順が緩いなど日本語の文法上の特性もあって、必要十分なデータを集めることすら難しいのだそう。それでも研究に取り組む理由を尋ねると、「世の中に必要なものは研究開発しなければいけないという信念と使命感があるからです。2017年に教授にいただき、業績や研究効率だけにとらわらず、皆がハッピーに暮らせる世の中を作るための研究を進めることができました」と笑顔で語った。

新たな一歩へ、マルチメディアを統合

研究進展のカギを握るのが、18年に設立され、自身がセンター長を務める同志社大学人工知能工学研究センターだ。言語、画像、音声など、AIに関わる様々な分野の研究者が集まって自由に研究に取り組んでおり、20年には文部科学省の予算を得て、開放型VR（仮想現実空間）人工知能環境実証実験装置も設置した。三方の壁面と天井を、コンピューターにつないだ39枚の液晶ディスプレイで覆ったこの空間は、映像、音響、空調などの機器を連携させることで、室内や屋外、自然の中といった疑似的な環境をリアルに再現する。センター設立か

ら5年。いよいよ各研究者の知見をクロスさせて活用する段階にきたと、土屋教授は意欲を見せる。

「この装置を使って、マルチメディアのデータを統合的に使うとどうなるのかを研究したいと思っています。例えば、この空間にいる人が今どういう心理状態にあるのか。言語だけでは無理でも、顔色や身振り手振り、声色、さらには脳波や脈拍なども一緒にとれば把握できるでしょう。センターでは当初から電子秘書システムの研究を続けており、教育への応用も考えています。遠隔地と映像をつないでバーチャルとリアルが融合した教育空間を作り出し、学生が積極的に質問できる環境づくりを探ったり、企業向けには集中力の高まるオフィススペースの研究をしたり、想像は広がります」。より創造的なものを生み出すため、学生はもちろん、外部とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいくという。

技術を使うことに自覚的であれ

同志社大学ならではの新しいAIの形に期待が高まるが、研究者でない場合は、どんな心構えでAIと向き合えばよいのだろうか。

「AIが言っているから正しいというわけではない、ということに自覚的であってほしいと思います。そうでないと、『AIに支配される』ことが現実味を帯びてくるでしょう」と土屋教授。人間が主体となって使うツールとして、良さも怖さも正しく理解してもらおうと、講演やセミナーの開催、年齢層に合わせた解説書の出版と、一般向けの啓発活動にも力を入れている。「AIに正確に指示する上では、国語力も重要です。人間同士のコミュニケーションに求められているものは、AIの世界でもやっぱり求められるんです。また、AIが人間の仕事をやっ

てくれるようになった時、生きがいはどう見つかるか。心豊かに生きるためにどうしたいか。そんなことも今後、一人ひとりに問われてくると思います」

技術は、それを生み出した開発者の思いがどうであれ、使い方次第で、希望にも脅威にもなり得る。技術革新が目覚ましい今の時代、「良心教育」を掲げる同志社大学の存在が大きな価値を持つと土屋教授は考える。

「ロケットを飛ばす技術は、横に飛ばせばミサイルになる。特に理系の学生は、それぐらい危険な技術、最先端の技術を扱っているんだと自覚し、根底にしっかりと良心を持って行動できる人であってほしい。そしてそれをグローバルにもローカルにも活用でき、リーダーとしてダメなことはダメだと発言できる人として活躍してくれたらと願っています。同志社大学には150年の歴史の中で受け継がれてきた良い伝統があり、社会で高い評価を受けています。さらに150年先も伝統として残していけるよう、私も教育者として、そこは大事に育てていきたいと思っています」





DOSHISHA DNA

【ビジネスパーソン】

AIは課題解決の手段 主体は必ず人にある

製薬会社での輝かしい実績と約束された将来に決別し、世界初のAI縁結びナビゲーションアプリを誕生させた、株式会社Aill(エール)代表取締役の豊嶋千奈さん。開発の動機とユニークなサービス内容、そしてAI時代を生き抜くために大切なこととは何かを聞いた。

株式会社Aill(エール)
代表取締役CEO

とよしま ちな
豊嶋 千奈さん

2009年同志社大学法学部卒業後、武田薬品工業株式会社に入社。営業を担当し、5年連続社内で表彰される。20代で女性幹部候補に抜擢されるが、16年に退社し、17年MBA取得。18年株式会社Aill創業。20年女性起業家日本代表に選出、21年HRアワード組織変革・開発部門最優秀賞受賞。

はじまりはふと湧いた疑問

就活時、思い描いたのは「自分の頑張りが誰かの笑顔につながる仕事」。その望みを医療界でかなえるべく、大手製薬会社に入社した。初心を忘れず、患者さんの笑顔のために自分はどう貢献できるのか、毎日必死に考え、情報を集め、行動し続けた。気づけば、営業成績は社内トップ。仕事は楽しい。やり甲斐もある。ところが、頑張るほどに期待され、仕事は増えていく。20代最後の年、ふと思った。「仕事以外の私の人生、どこへ行った?」

豊嶋千奈さんが一転、畑違いの事業を起こしたのは、この突如降って湧いた疑問が発端点だ。「キャリアとライフの両方を充実させてこそ、人生の幸福度は上がる。なのに、キャリアを重ねる同世代は、みんなおひとり様。で、言うんです。こんなはずじゃなかったって」

今、多くの企業が多様な働き方を推進し、社内環境の整備に努めている。「でも、そうした取り組みの対象から、私たち独身者は放っておかれている。産休・育休の前に、パートナーを選ばないといけないのに、それができない。本当の意味での女性活躍推進も少子化問題も、このあたりに課題があるんじゃないかと思いました」。夫婦で支え合い、仕事も家庭も充実させ、幸せに生きる。「でも、二人の気持ちだけではどうにもならない。核家族が主流の日本においては、妻と夫双方の職場において福利厚生制度が活用できることが必須なんです」

関係進展をAIがアシスト

縁結びナビゲーションアプリ「Aillier goen」がよくある恋愛マッチングアプリと決定的に異なるのは、法人専

用だということ。豊嶋さんが目指すのは、あくまでも恋愛や結婚の先にある「共働き夫婦の幸せな未来」だ。個人と企業のウェルビーイング*が最終目的だからこそ、はじめから企業の福利厚生メニューとして開発設計した。したがって、利用者もサービスを導入した企業の従業員同士に限られる。こうすることで、既存のマッチングアプリの一番の課題である安心・安全性も担保された。

もう一つ特異なのは、人と人とのコミュニケーションをアシストするAIを開発したこと。「男女を集めて実証実験をしたところ、想像以上に男女間でコミュニケーションのすれ違いが起きていたんです。相手の心をつかむには、相手を知らないといけない。だから、二人の間をとり持ち、双方に情報を届ける何かが必要だと考えました」と同時に思い出したのが、「営業と恋愛は紙一重」という言葉だ。営業なら、さんさんやつてきた。製品を認知してもらうところからロイヤルカスタマー（自社の商品やサービスに忠誠心の高い顧客）になってもらうまでの営業ノウハウは、恋愛にも転用できるのではないかと。そう仮説を立て、自身が培ってきたノウハウをAIに代行させ、二人が関係を深めていく過程に介入させることを思いついた。要は、かつての「お見合い仲人さん」である。AIなら、仲人さんには持ちえない膨大なデータと、それに裏打ちされた確度の高い情報、客観的な判断がある。遠慮も無用だ。ゆえに、失敗したくない、傷つきたくない、本音が言えないといったミレニアル世代、Z世



代に響くと見込んだ。豊嶋さんのユニークなアイデアに、日本のAI界の権威も動いた。彼らと試行錯誤を重ねた末にAill goenのサービスを開始すると、目論見通り大ヒット。上々の結果を得た。現在、導入企業は1000社に迫る。

思考力を鍛え、自分を持つ

恋愛や結婚までAI任せ？と思う人もいるだろう。「でも、（開発設計に協力した）先生方が共通しておっしゃる通り、AIは課題解決の手段にすぎません。Aill goenも、AIはすれ違いを解消するだけ。行動する主

体は、絶対に人なんです」。だから、このAI時代に重要なのは、「思考力を鍛えること」。自身が実践してきたように、「常に自分で考え、行動すること」で、AIは頼もしいツールとなり得るのだ。

同志社大学では、政治学を専攻した。師事した伊藤彌彦名誉教授は、ある事象が起きた背景をあらゆる角度から読み解く重要性と面白さを教えてくれた。「無関係に思われるような情報もできるだけ集めて、点と点を結んでゆく。すると、新たな気づきがある。そんなふうにして鍛えられた思考力は、会社員時代も今も生きています」。そして、もう一つ、「思考力を鍛えるために、何か一つどんなことでもいいから、120%の力を出し切ること。失敗しても後悔しないほど打ち込んだ体験は、後に必ず糧となります」

豊嶋さんの言葉は、いずれも具体性に富み、力強い。その力強さは、「成功よりはるかに多い失敗経験」に加え、やはり「誰かの笑顔につながる仕事を」というブレない信念によるものでもある。

*身体的・精神的・社会的に良好な状態であること。





DOSHISHA DNA

【ビジネスパーソン】



立ち止まることなく 常にAIが拓く新境地へ

在学中からディープラーニングの研究に取り組み、起業精神、そして人との出会いによってAI事業を育ててきた古屋俊和さん。「厳しい規制を敷く欧米に比べ、活用ありきで検討が進む日本はAIの発展に期待できる」と話す。どんな未来図を描いているのか。

AIとの対話で心の健康や幸福を

ひと言悩みを問いかけると、ブツダと対話しているかのように答えてくれる。「ブツダポット」は意外な掛け合わせに思える、宗教とAIをリンクさせた新型チャットアプリで、まもなく公開予定だ。提供元のテラバースの代表取締役CEO・古屋俊和さんは、開発のきっかけについてこう話す。

緊張の続いた多忙な仕事から解放され、夢が叶った達成感に浸って自由な時間とお金を手にしていた当時。「毎日趣味の釣りに出かけ、寝たいだけ寝られる。でも、なぜか面白い。逆に苦痛を感じる。お寺のご住職に『なんで好きなことをしていても辛いんですかね』と尋ねると、『苦しみがないと幸せは感じられない』と諭されました」

人は苦痛から逃れたその瞬間は幸せを感じるが、それが常態化すると幸福感がなくなる。自らの体験をきっかけに、心のマネージメントに興味を湧いた。日本では古いやスピリチュアルなマーケットが強く、科学的なアプローチが少ない領域。AIを使ったカウンセリングによって、客観性が保たれるのではないかと。また、お参りの習慣があり、漫画・書籍などでも仏教は身近にあるのに、心のマネージメントにはあまり生かされていない。AIの導入で新しい層に仏教を伝えつつ、争いや自殺が減らせるのではないかと。こうして生まれたブツダポットは、話題の「チャットGPT」を組み入れたことで、より深い対話を繰り返すことができるようになったという。

人との出会いが加速力に

テラバースは、古屋さんが作った3つ目の会社だ。1つ目は、京都大学MBA在学中に設立したデータ解析を行う個人研究所「Data Science, inc(現…

株式会社テラバース
代表取締役CEO **ふるや としかず**
古屋 俊和さん

2010年、同志社大学文化情報学部卒業後、京都大学MBAへ進学。会社設立と休学を経て修了し、14年から京都大学大学院情報学研究所でディープラーニング研究を行う。22年に株式会社テラバースを共同創業。現在は学生や研究者のベンチャー支援にも注力している。



Quantum Analytics」。2つ目は、2021年に上場を果たした「エクサウィザーズ」。そして、ブッダボットをはじめ伝統知と最新技術を掛け合わせた新たなサービスを提供する「テラバース」だ。「千三つ(うまくいくのは1000件のうち3件)」と言われるスタートアップの世界にあって、この打率はとんでもなく高い。

「最初に作った会社での研究がシーズ(種)となって、その後の起業に繋がりました。エクサウィザーズからは上場前に退いています。元DeNA会長の春田真さんと、2016年にエクサウィザーズの前身となる会社をつくりました。

AIの会社を作りたいと研究者を探していた春田さんに、声をかけてもらったのがきっかけです」。当時まだディープラーニングはマイナーな分野で「起業に関わる暇な研究者は自分くらいしかないなかつたのでしょう」と古屋さんは笑う。しかし、その後すぐAI技術の飛躍的な発展とブームに乗って、会社は瞬く間に成長した。テラバースの構想が進んだのは、まさにエクサウィザーズの成功後で、次のステップへ進みたいと会社を離れた頃だった。

「青蓮院のご住職である東伏見慈晃さんと、仏教とAIのコラボレーションについて話していた時、テラバースの共同研究者となる京都大学の熊谷誠慈准教授を紹介されました」。多くの仏教研究者がAIをはじめテクノロジーに対して強い抵抗感を示すなか、仏教の現状を変えたいと一歩踏み出した熊谷准教授に共感したという。

「今は(テラバースの)代表ですが、いずれ適任者が見つければその方に譲って、私はまた次のことに進むつもりです」

古屋さんが現在取り組むのが、学生や研究者のベンチャー支援。メンタリングなアドバイスや、投資による創業サポートも行う。「まだ燻っているけれど、誰か支援してくれる人がいたら、社会を変えるために輝ける。そんな人たちに応援するエコシステム作りが、私にできる恩返しかなと思っています」

今後求められるAI人材の素養

「コンピュータが人間のように推論すると面白い。そう感じて当時開学したばかりの同志社大学文化情報学部に入学しました。データサイエンスの先駆けで、しかも人間の推論を深めるための文系講義も受けられる文理融合の理想的な環境でした。今後AI分野はテクニカルな面はハードルが低くなり、AIをどう使うかのアイデアに優れた文系的人材が必要とされるでしょう」

AIに情報を教え込むアプリケーションは、人間によって行われる。「もしこの中に悪い人が紛れ込んでいた場合、極端な例を言えば攻撃的であったり、犯罪を簡単に教えることもできたりしてしまふ。AIを教育する人の倫理観がとても重要になってきます」。開発者がAIに何を教えるかによって、賢くも、愚か

にも作り上げられる。「ブッダボットのように、宗教あるいは哲学や文学の知識も、今以上に役立つくる。最近は何間内では、戦争をやめさせるAI活用について考えたりしています」。AIに将来何をさせるのか。開発者としてもユーザーにも同じく正しい倫理観が求められる。

また、社会で活躍する人たちの多くが、一つの特化した技術力よりも複合的な能力で戦っていると話す。コミュニケーション、人脈、行動力で社会のニーズを掴み、どうプロモーションするか思考できる能力は、AI業界に限らず、今後欠かせないだろう。「私は大学2回生の時に仲間とフリーペーパーの会社を始め、厳しい研究室に入って、寝袋片手に毎日研究に明け暮れました。寝食を共にしたメンバーとは今も繋がっています。同志社大学での出会いと体験が起業を志した原点であり、今の私を創っています。学生の皆さんには今いる環境を生かし、どんな能力を伸ばすかを考えながら学んでほしいです」



ブッダボットは、仏教経典・スタッフニパータからのQ&Aリストを機械学習している





データでみる同大生の

2022年度 就職状況

2022年度の就職率は98.8% (学部・研究科合計)となり、コロナ禍による採用意欲の停滞からの反動で、回復傾向が見られました。多くの企業では、競争が一層激化する環境下で、将来のコアとなる人材を確保しようとする厳選採用の姿勢が堅持され、採用基準を緩和せずに、採用予定人数を充足しないまま採用活動を終了する企業もありました。一方、一部の学生に内定が集中した結果、内定辞退が想定以上に発生するなど、採用予定人数を確保できず、夏以降も採用活動を継続するケースも多く、企業の動きは一層多様化しました。このような状況から、これまで以上に、変化に柔軟に対応し、自ら考え行動できる自立した学生が求められています。皆さん自身が納得できるキャリアを形成するためには、勉強やサークルなど、今できることに本気で取り組み、充実した大学生活を過ごし、インターンシップやキャリアセンターのプログラムを通じて社会の動向や働くことへの理解を深め、早い段階から将来の進路を考えていくことが大切です。

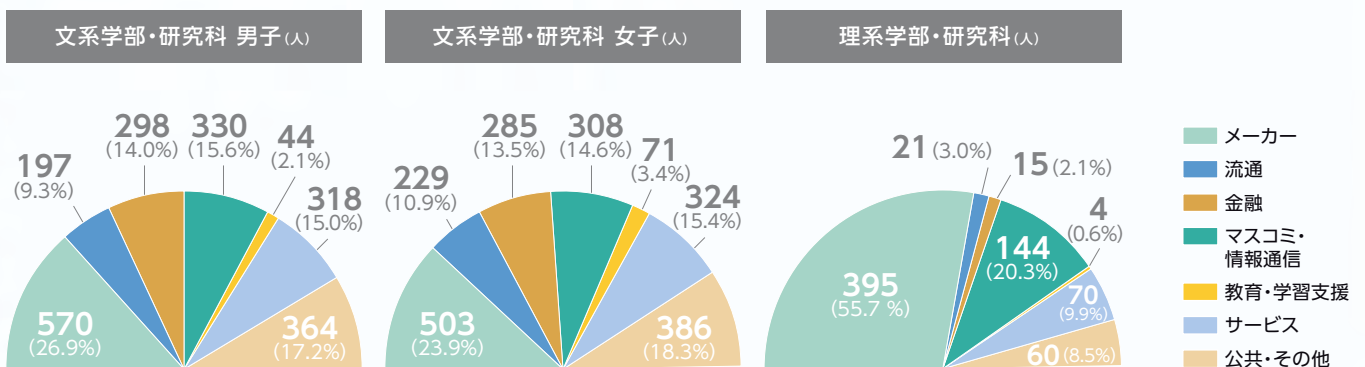
就職者数上位30位 会社名と人数

Table with 4 columns: 文系 (Left), 理系 (Right), and two columns of company names and employee counts.

*企業・団体名は2023年3月31日現在の名称を記載しています。

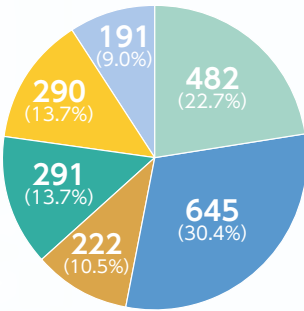
業種別内定状況

※率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

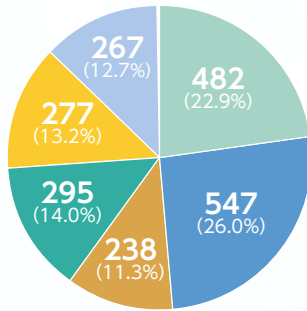


■ 従業員規模別就職状況

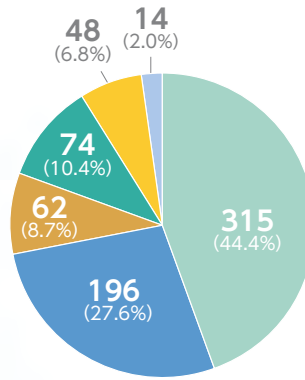
文系学部・研究科 男子(人)



文系学部・研究科 女子(人)



理系学部・研究科(人)



- 巨大企業 ■ 中企業
- 大企業A ■ 小企業
- 大企業B ■ その他

注: 巨大企業=従業員5,000人以上
大企業A=1,000人以上
大企業B=500人以上
中企業=100人以上
小企業=100人未満

※率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
※各種学校、非営利団体、宗教法人、医療・保健、介護事業、公務員などの業種は全てその他に含まれます。
※データは2022年度確定数です。

キャリアセンターWebサイトで情報収集できます!

キャリアセンターが開催するプログラム情報や個別相談の利用方法、OB・OG情報の閲覧方法など就職活動に関する情報をお知らせしています。1年次生から参加できるプログラムもあります。就職活動を考えている方はもちろん、将来を考えるきっかけがほしい方もぜひ利用してください。



[Webサイトに掲載している主な内容]

- キャリアセンター利用案内 ●個別相談利用方法
- OB・OG訪問情報の閲覧方法 ●プログラム案内
- 証明書・履歴書 ●就職統計情報

同志社大学限定の求人情報を見ることができます!

「求人・インターンシップ情報検索サイト」には、企業・団体から届いたインターンシップや求人の情報を掲載しています。情報検索時に「募集校限定求人」の条件を設定することで、「特に同志社大学の学生を採用したい」と考えている企業の求人情報を見ることができます。ぜひご利用ください。



求人・インターンシップ情報検索サイト

個別相談(予約制)を利用しよう!

「予約制」、「就職相談」と身構えずに気軽に利用を

キャリアコンサルタントの資格を持つアドバイザーや同志社大学職員に、自身のキャリアやインターンシップ、就職に関する相談をすることができます。1年次生から利用可能です。「就職活動の流れが知りたい」、「自分の強み分からない」といった相談もOKです。気軽な気持ちで利用してください。

予約方法等の詳細はキャリアセンターWebサイトの「個別相談の利用」でお知らせしています。

キャリアセンター年間プログラム

スタートは3年次生の春から!

キャリアセンターの支援プログラムが本格的に始まるのは3年次生の春からです。コアプログラムは「ガイダンス」・「セミナー」・「ワークショップ」を1セットとし、年間3セット実施します。それらのプログラム以外に、公務員志望者向けのプログラムや、内定を持つ先輩学生との交流会などを開催しています。就職活動は、学業や部活動と就職活動をいかに両立させるかがポイントです。自身のスケジュールとキャリアセンターのプログラム日程を確認しながら、計画的に就職活動を進めましょう!

2025年春採用に向けた主な支援プログラム(3年次生・大学院1年次生対象)

	2023年				2024年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
					サマーインターン				オータム&ウィンターインターン				広報解禁	
ガイダンス	●キャリアガイダンス				●就職ガイダンス				●就職ガイダンス					
セミナー(自分を知る)	●自己分析セミナー ●エントリーシートセミナー ●面接セミナー ●グループディスカッションセミナー				●自己分析セミナー ●エントリーシートセミナー ●面接セミナー ●グループディスカッションセミナー				●自己分析セミナー ●エントリーシートセミナー ●面接セミナー ●グループディスカッションセミナー					
ワークショップ(実践講座)	●エントリーシートワークショップ ●面接ワークショップ ●グループディスカッションワークショップ				●エントリーシートワークショップ ●面接ワークショップ ●グループディスカッションワークショップ				●エントリーシートワークショップ ●面接ワークショップ ●グループディスカッションワークショップ					
仕事研究	●仕事研究セミナー ●業界研究セミナー ●インターンシップ等に向けての企業セミナー				●仕事研究セミナー ●業界研究セミナー ●企業セミナー				●仕事研究セミナー				●学内企業説明会	
その他	●筆記試験対策セミナー ●公務員・公立学校教員業務説明会 ●都道府県別Uターンセミナー ●OB・OG交流会 ●グローバルキャリアフェア				●筆記試験対策セミナー ●公務員・公立学校教員業務説明会				●筆記試験対策セミナー				●公務員・公立学校教員採用説明会	
	●理系対象就職ガイダンス ●障がい学生対象就職ガイダンス ●留学生対象就職ガイダンス				●内定を持つ先輩との座談会				●内定を持つ先輩との座談会					
	1クール目 サマーインターンに向けた準備				2クール目 オータム&ウィンターインターンに向けた準備				3クール目 本選考に向けた準備					

個別相談(予約制) ※相談方法は対面・Web・電話から選択できます

■ 2022年度 事業活動収支計算書 2022年4月1日から2023年3月31日まで
(単位:千円)



事業活動収支	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	32,661,810	33,214,214
手数料	1,662,800	1,779,797	△ 116,997	
寄付金	313,080	478,828	△ 165,748	
経常費等補助金	3,753,800	3,723,704	30,096	
付随事業収入	956,020	1,036,130	△ 80,110	
雑収入	1,074,430	1,054,972	19,458	
繰出金(教育活動)	0	1,761	△ 1,761	
分担金	154,370	166,400	△ 12,030	
教育活動収入計	40,576,310	41,455,806	△ 879,496	
科目	予算	決算	差異	
人件費	21,477,900	21,428,717	49,183	
教育研究経費	16,198,380	16,316,311	△ 117,931	
管理経費	1,792,890	1,904,911	△ 112,021	
徴収不能額等	19,200	28,859	△ 9,659	
繰入金(教育活動)	0	12,198	△ 12,198	
教育活動支出計	39,488,370	39,690,996	△ 202,626	
教育活動収支差額	1,087,940	1,764,810	△ 676,870	
科目	予算	決算	差異	
受取利息・配当金	159,710	322,913	△ 163,203	
その他の教育活動外収入	440	0	440	
繰出金(その他)	5,600	5,133	467	
教育活動外収入計	165,750	328,046	△ 162,296	
科目	予算	決算	差異	
借入金等利息	0	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
繰入金(その他)	0	1,038	△ 1,038	
教育活動外支出計	0	1,038	△ 1,038	
教育活動外収支差額	165,750	327,008	△ 161,258	
経常収支差額	1,253,690	2,091,818	△ 838,128	

(単位:千円)

特別収支	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0
その他の特別収入	240,000	364,191	△ 124,191	
繰出金(施設設備)	350,000	350,000	0	
特別収入計	590,000	714,191	△ 124,191	
科目	予算	決算	差異	
資産処分差額	0	21,496	△ 21,496	
その他の特別支出	0	37,932	△ 37,932	
繰入金(施設設備)	0	0	0	
特別支出計	0	59,428	△ 59,428	
特別収支差額	590,000	654,763	△ 64,763	
予備費	260,000	260,000	0	
基本金組入前当年度収支差額	1,583,690	2,746,581	△ 1,162,891	
基本金組入額合計	△ 2,104,200	△ 1,996,100	△ 108,100	
当年度収支差額	△ 520,510	750,481	△ 1,270,991	
支出準備金取崩額	760,500	1,135,980	△ 375,480	
支出準備金繰入額	△ 563,450	△ 1,410,175	846,725	
基本金取崩額	346,690	1,776,483	△ 1,429,793	
調整後当年度収支差額	23,230	2,252,769	△ 2,229,539	
前年度繰越収支差額	△ 30,183,700	△ 30,183,696	△ 4	
翌年度繰越収支差額	△ 30,160,470	△ 27,930,927	△ 2,229,543	

(参考)

事業活動収入計	41,332,060	42,498,043	△ 1,165,983
事業活動支出計	39,748,370	39,751,462	△ 3,092

2023年度

大学予算について

2023年度大学予算は、3月2日開催の予算委員会および大学評議会、3月25日開催の法人評議会、理事会で承認、決定されました。主な事業は以下のとおりで、詳細な予算額については2023年度事業活動収支予算書のとおりです。

教育研究の充実
教室等マルチメディア環境整備
赤ちゃん学術センターの共同利用・共同研究拠点化
Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム
社会連携推進と大学院生へのキャリア形成支援

学生生活支援の充実
キャリア支援に関するオンラインブース設置
学生相談AIチャットボット運用
体育会向けコンプライアンス講習会実施

企画広報・管理運営
Webサイトリニューアル
教務システム改修
同志社大学ポータル改修(安否確認システム)
学費収納方法多角化(クレジットカード等導入)対応

建設事業
寧静館・新創館改築等工事
京田辺キャンパス教室等改修工事
今出川新図書館改築等工事
スポーツ・コンプレックス事業
京田辺キャンパス体育施設整備

■ 2023年度 事業活動収支予算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで
(単位:千円)

事業活動収支	科目	予算	前年度予算	増減
		学生生徒等納付金	32,454,690	32,661,810
手数料	1,662,800	1,662,800	0	
寄付金	310,800	313,080	△ 2,280	
経常費等補助金	3,599,590	3,753,800	△ 154,210	
付随事業収入	968,270	956,020	12,250	
雑収入	1,213,820	1,074,430	139,390	
繰出金(教育活動)	0	0	0	
分担金	185,850	154,370	31,480	
教育活動収入計	40,395,820	40,576,310	△ 180,490	
科目	予算	前年度予算	増減	
人件費	21,525,080	21,477,900	47,180	
教育研究経費	16,005,240	16,198,380	△ 193,140	
管理経費	1,960,580	1,792,890	167,690	
徴収不能額等	15,680	19,200	△ 3,520	
繰入金(教育活動)	0	0	0	
教育活動支出計	39,506,580	39,488,370	18,210	
教育活動収支差額	889,240	1,087,940	△ 198,700	
科目	予算	前年度予算	増減	
受取利息・配当金	221,410	159,710	61,700	
その他の教育活動外収入	440	440	0	
繰出金(その他)	4,570	5,600	△ 1,030	
教育活動外収入計	226,420	165,750	60,670	
科目	予算	前年度予算	増減	
借入金等利息	0	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
繰入金(その他)	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	226,420	165,750	60,670	
経常収支差額	1,115,660	1,253,690	△ 138,030	

(単位:千円)

特別収支	科目	予算	前年度予算	増減
		資産売却差額	0	0
その他の特別収入	200,000	240,000	△ 40,000	
繰出金(施設設備)	220,000	350,000	△ 130,000	
特別収入計	420,000	590,000	△ 170,000	
科目	予算	前年度予算	増減	
資産処分差額	168,610	0	168,610	
その他の特別支出	0	0	0	
繰入金(施設設備)	0	0	0	
特別支出計	168,610	0	168,610	
特別収支差額	251,390	590,000	△ 338,610	
予備費	250,000	260,000	△ 10,000	
基本金組入前当年度収支差額	1,117,050	1,583,690	△ 466,640	
基本金組入額合計	△ 2,169,600	△ 2,104,200	△ 65,400	
当年度収支差額	△ 1,052,550	△ 520,510	△ 532,040	
支出準備金取崩額	430,900	760,500	△ 329,600	
支出準備金繰入額	△ 620,970	△ 563,450	△ 57,520	
基本金取崩額	594,890	346,690	248,200	
調整後当年度収支差額	△ 647,730	23,230	△ 670,960	
前年度繰越収支差額	△ 27,930,930	△ 30,183,700	2,252,770	
翌年度繰越収支差額	△ 28,578,660	△ 30,160,470	1,581,810	

(参考)

事業活動収入計	41,042,240	41,332,060	△ 289,820
事業活動支出計	39,925,190	39,748,370	176,820

2022年度大学決算は、2023年5月11日開催の大学予算委員会及び大学評議会、5月27日開催の法人理事会で承認されました。

2022年度は、施設設備整備について、今出川校地においては、新図書館改築等工事及び早急に対応する必要がある各建物の耐震化対策の一環としての寧静館及び新創館の改築工事を実施しました。また、京田辺校地においては、トイレ改修工事や体育施設整備を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。

教養面では、教室のマルチメディア環境整備、授業動画配信のためのストリーミングメディアシステムのリプレース、インフラ系情報システムのリプレース等による情報環境の充実により、対面授業とネット配信授業それぞれの利点を学生が最大限享受できる環境の整備を重点的に進めました。

2018年度から進めている「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」では、学部及び研究科が提案する質の高い教育プログラムから得られた様々な教育効果を改めて分析・共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成するプログラムの新たな構築を進めています。また、科学技術が高度に発達した現代社会において、文系理系を問わず全学生に必要な教養教育として、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」を開始しました。さらに、これまでの英語教育の伝統をさらに発展させ、習熟度別クラス編成の拡充、少人数クラス体制など、多様化する学生のニーズにフレキシブルに対応し、自律した外国語学習者を育てるため、外国語教育科目(英語)のカリキュラムを刷新しました。

研究面では、産官学連携を基軸にしたオープンイノベーションによる教育、研究及び研究成果の社会実装の推進を目的として設置した「カーボンサイクル教育研究プラットフォーム」の事業推進に向け、同志社大学カーボンサイクル技術フォーラムを発足させ、参加企業と社会実装に向けた情報交換、技術検討を開始しました。また、All Doshisha Research Model 2025「諸君ヨ、一人一人ハ大切ナリ」同志社大学SDGs研究」を立ち上げ、SDGs 達成のための研究課題を支援することにより、SDGsに取り組む「同志社」を国内外に発信するプロジェクトを開始しました。

学生支援面では、障がい学生に対する修学支援として、音声リアルタイムに表示するシステムを両校地のスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室およびラーニング・commonsに設置し、情報保障の整備に係る据置型音声通訳システムに関する実証実験を実施しました。また、学生生活全般に対応するAIによるチャットボット相談ページを開発し、カウンセリング体制の充実を図る取り組みを実施しました。

I. 教育活動収支

学生生徒等納付金は332億円で、事業活動収入に占める割合は約78%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金を受入れました。

経常費等補助金は37億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助22億円、特別補助3億円を受入れた他、授業料等減免費交付金として11億円を受入れています。その他の国庫補助金では、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材の育成、能力開発を目的とした次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金などを受入れました。

付随事業収入は10億円で、企業からの共同研究費・受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は11億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

繰出金は、法人内各学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は2億円で、法人業務に係る法人内各学校の負担分です。

教育活動収入計は415億円で、予算に対して9億円の増額となりました。

人件費は214億円で、事業活動収入に対して約50%となりました。

教育研究経費は163億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は19億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の支出を加えた**教育活動支出計**は397億円となり、予算に対して2億円の増加となりました。

学校法人の本業である教育研究事業の収支である、**教育活動収支**は、18億円の収入超過です。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」を継続して実施しました。この募金は、ビジョンに掲げる事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いするもので、2025年末まで継続的に実施する予定です。

以上の通り、2022年度もこれまで同様、教育、研究、学生支援、施設設備整備の各方面に亘り、必要となる財政的支援を重点的かつ効果的に行いました。収入面では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、付随事業収入の増収により、予算よりも大幅な増収となり、支出面においては、電気料金及びガス料金の著しい高騰等により予算と比較してやや増加しました。

以下、事業活動収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

用語解説

■ 事業活動収支計算書

学校法人会計基準において学校法人に作成が求められている計算書類の一つで、当該年度の事業活動における収入と支出の内容とその均衡状況を表すものです。

■ 事業活動収入

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

■ 事業活動支出

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額など当該年度に消費する支出です。

■ 基本金

基本金は、学校法人の活動計画に基づき必要となる資産を事業活動収入から組入れて継続的に保持するもので、自己資金により取得した固定資産の価額に対応する第1号基本金、将来取得する固定資産に充てるための第2号基本金、運用果実により教育研究活動を進めるための基金である第3号基本金、恒常的に保持すべき運転資金である第4号基本金から成ります。事業活動収支計算書では、当年度に組入れる額が「基本金組入額合計」で表示されています。

II. 教育活動外収支

教育活動外収支は、主に財務活動の収支区分で、受取利息・配当金の計上等により、3億円の収入超過です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた**経常収支**は21億円の収入超過です。

III. 特別収支

特別収支は、特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び事業活動支出で、7億円の収入超過です。施設設備に係る寄付金及び補助金、現物寄付、法人内資金調達に係る貸付額及び返済額、本年度除却の固定資産に係る資産処分差額並びに過年度修正額が該当します。

IV. 基本金組入額および収支差額

基本金組入前当年度収支差額は27億円の収入超過となります。

基本金組入額は学校法人がその諸活動の計画に基づき必要となる資産を継続的に保持するために組み入れる額で、20億円を組み入れます。今後の資産取得に向けての第2号基本金の組入れが主なものです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額は8億円の収入超過となります。

支出準備金取崩額は11億円で、用途が特定された準備金の取崩額などです。

支出準備金繰入額は14億円で、用途特定寄付金、研究費および大規模建設事業などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

基本金取崩額は18億円で、固定資産取得価額を上回る除却分です。

当年度収支差額に支出準備金取崩、繰入、基本金取崩額を加えた**調整後当年度収支差額**は、23億円の収入超過となります。

なお、**累積収支差額**として280億円の支出超過額を翌年度に繰り越すこととなります。



〔ゼミで学ぶ 魅力を語る〕

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。

それぞれ、どんなことを学んでいるのか。

ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

大学で行うペプチド創薬



生命医科学部
助教

たかはし みほ
高橋 美帆 ゼミ

Miho Takahashi

私のゼミでは、西川喜代孝教授と共にペプチド創薬研究を行っています。多量体構造を形成して機能するタンパク質が標的分子と結合する際、多価対多価の相互作用をすることで非常に高い親和性で両者が結合することがあります。このような相互作用は、様々な生命現象や疾患の発症に関与しており、創薬ターゲットとして注目されています。私達は、この相互作用を阻害する分子を同定する技術、多価型ペプチドライブラリー法を用いて、腸管出血性大腸菌感染症や、インフルエンザ等の疾患の治療に役立つ薬剤の開発を行っています。

研究室に配属されるとまず、個別のテーマが決まるので、学生は周辺の勉強を始めます。同時に実験の基本操作を一つずつ習得します。教員と打ち合わせを重ねながら研究を進めますが、教員や先輩との議論を通じて自分で考え主体的に研究に取り組むようになることを重視しています。思うよういかない時期はつらいかもしれませんが、自分の研究を隅々まで大事にし、周囲と相談しながら試行錯誤するうちに知識や技術は確実に向上していくので、そのうちヤッターと思うような結果に出会うと思います。大学での研究は学生の成長と共に進むので、効率的ではないこともありますが、個々の努力によって得られた成果は、将来の医薬品開発や治療法に必ず役立つと信じています。

ゼミ生の声(アンケート結果)

この研究室の魅力は？
「コアタイムがあるためいつも全員いて議論や質問がしやすい」「研究仲間がいるのでやる気がでる」

ゼミは学生が創るもの



法学部
教授

おぎの なお
荻野 奈緒 ゼミ

Nao Ogino

法学部法律学科では、事例問題や判例をもとに議論をしているゼミが多いのではないかと思います。私のゼミでも、二年次演習では、民法の基本的論点を含む事例問題を検討しています。学生には、ゼミでの議論を通じて、自ら調査し、考え、発言し、他人の意見に耳を傾けて、議論を組み立てる能力を身につけてほしいと思っています。

法解釈が実際の事件でどのように生かされるのを感じてもらいたいことにあるのですが、学生の主体的な取り組みを促すという点でも意義があると感じています。

荻野ゼミの特色は？
「好奇心をもって取り組む姿勢を尊重し、『何故こうなるのか』の問いをことごとく追求できるゼミ」「個人が主体的に活動し、活発な議論を通して、自らの弱点を共有することで、より高みを目指すことができるゼミ」「ゼミ生のレベルが高く、設問に対して深い理解が得られるゼミ」「自主性を尊重してもらえて、議論や発表を通して民法の面白さ、奥深さに気づけるゼミ」「法曹志望者や大学院進学希望者が多く、それぞれの目標に向かってお互いに高めあえるゼミ」など

Seminars

learning objects of

「障害」を考える 障害者スポーツにおける



スポーツ健康科学部
助教

かわにし まさひろ
河西 正博 ゼミ

Masahiro Kawanishi

私のゼミでは「障害者スポーツにおける『障害』とは何か」ということを追求していきます。「障害」と言っても千差万別であり、障害者のスポーツ参加時のバリアや障害当事者の障害観、障害者スポーツへの理解や認知度等様々な観点がありませんが、それぞれにテーマを設定して、スポーツと障害の関係性を探求していきます。具体的な取り組みとして、自分なりの問題関心を醸成してもらうために、座学だけではなくポッチャや車いすバスケットボールの体験、特別支援学校での運動指導等の実践により、障害当事者と関わり「生きた知識」を学ぶことで、個々の検討課題を明確化してもらいたいと考えています。

ゼミの中には全国レベルの競技

歴をもつ学生がいますが、一歩地域に出ると、スポーツが苦手である、嫌いである、やりたくてもできない等、様々な困難を抱えた人々が存在し、これまでの自分たちの知識や経験のみでは対応しきれない場面に遭遇します。障害者スポーツを学ぶ意義は、このような場面において、多様なニーズを抱えた人々に向き合う時に見いだされるのではないのでしょうか。学生たちには、障害者スポーツを通じて、スポーツの多様な価値観を学び、多様な人々とスポーツによるコミュニケーションを図ることで、将来、障害の有無に関わらず多くの人々に体育やスポーツの楽しさを伝えられる存在になってもらいたいと願っています。

探究の共同体



文学部
助教

おがわ たける
小川 雄 ゼミ

Takeru Ogawa

小川ゼミでは、主につぎの二つの領域を探索しています。すなわち、人間のあり方を関係的に捉える倫理思想と、コミュニケーションを論理的な観点から究明する哲学思想です。現在、受講生と教員が取り組んでいるのは、「ケアの観点からの自律の捉え直し」とか「道徳性と共感」とか「医療における物語の役割」といったテーマです。

小川ゼミの運営方針は、受講生と教員が上記の倫理・哲学思想を実践することです。すなわち、「興味・関心の異なる人たちが互いを認めあいながら意見を交わし、そのなかで、それぞれの興味・関心を深めていくこと」です。そのために、演習では、質問や論証の作

法をワーク形式で学んだうえで、発表と議論を活発に行っています。こうした活動をとおして、受講生は、論理的な飛躍や隠れた前提などを次第に見つけられるようになります。また、そうした鍛えられた視点からの鋭い意見に出会うことは、変化のきっかけになるでしょう。

哲学科の演習の目的は、第一義的には、もちろん、卒業論文の完成です。しかし、演習での学びの意義は、それに尽きるわけではありません。倫理学と哲学の研究をとおして、異なる考えを持つ人と協働していくための基礎体力をつくってほしいと思います。



2023 July

本学教員の 執筆図書紹介

(価格は税込み)

動物という隣人

鬼頭葉子 著 新教出版社 5,995円

抄物の言語と資料

山本佐和子 著 くろしお出版 7,480円

多様化するアメリカと 合衆国最高裁判所

檜垣伸次 他著 成文堂 6,050円

日本政治の第一歩 新版

岡野八代 他著 有斐閣 2,200円

沖縄の引き延ばされた占領

新井京 著 有斐閣 7,700円

情報倫理 改訂3版

原田隆史 佐藤翔 他著
技術評論社 1,628円

実務と理論の架橋

松原久利 川崎友巳 十河太朗
洲見光男 他著 成文堂 26,400円

海のグローバル・サーキュレーション

肥後本芳男 他編著
関西学院大学出版会 4,950円

現代日本の紛争過程と 司法政策

木下麻奈子 他著
東京大学出版会 16,500円

ソーシャルワーク論 I 基盤と専門職

小野セレスタ摩耶 他著
法律文化社 2,860円

考えを深めるための教育課程

奥野浩之 他編著 本多千明 他著
ミネルヴァ書房 2,640円

これから学ぶスポーツ心理学 三訂版

石倉忠夫 他著 大修館書店 2,200円

パラリーガルの実務感覚から学ぶ 民事訴訟・執行・保全

川嶋四郎 監修 日本評論社 3,190円

内藤湖南研究の最前線

村田雄二郎 銭鷗 他著
関西大学出版部 5,170円

核共有の現実

倉科一希 他著 信山社出版 4,620円

知の統合は可能か

渡辺政隆 他著
時事通信出版局 3,080円

NATO(北大西洋条約機構)を 知るための71章

穂山洋子 月村太郎 他著
明石書店 2,200円

二つの大戦と帝国主義 II

石井香江 他著 岩波書店 3,520円

ジョージ・ミュラーと キリスト教社会福祉の源泉

木原活信 著 教文館 5,060円

教師の相互行為能力は記述可能か

石野未架 著 多賀出版 4,400円

SDGs ネクスト 「深山大沢」プロジェクト

小原克博 樹太一 野口範子 八木匡
飯塚まり 和田喜彦 林田明 稲岡恭二
金津和美 後藤琢也 石川正道 他著
All Doshisha Research Model 2025
「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」
同志社大学SDGs研究「プロジェクト
(2022年度)「ネクスト「深山大沢」
プロジェクトー良心の概念拡張と
新たな実践」

応用基礎としての データサイエンス

宿久洋 他著 講談社 2,860円

知財とパブリック・ドメイン 第3巻 不正競争防止法・商標法篇

山根崇邦 他著 勁草書房 4,950円

日本の政治過程 選挙・政党・利益団体研究編

森裕城 著 木鐸社 3,300円

アメリカ研究の現在地

肥後本芳男 他編著 倉科一希 他著
彩流社 3,850円

ロボット工学ハンドブック 第3版

佐藤健哉 他著 コロナ社 41,800円

科学コミュニケーション論の展開

渡辺政隆 他著
東京大学出版会 3,960円

『拳白集』評釈 和文篇

大山和哉 他編著 和泉書院 16,500円

伝送線路論

出口博之 著 数理工学社 2,365円

社会福祉学習双書 2023 第8巻 地域福祉と包括的支援体制

永田祐 野村裕美 他著
全国社会福祉協議会 3,080円

社会福祉学習双書 2023 第9巻 ソーシャルワークの基盤と専門職

空閑浩人 他編著
全国社会福祉協議会 2,420円

社会福祉学習双書 2023 第10巻 ソーシャルワークの理論と方法

空閑浩人 他編著
全国社会福祉協議会 2,860円

激動する世界経済と 中小企業の新動態

関智宏 他著 御茶の水書房 4,620円

災害と復興の社会学 増補版

立木茂雄 著 萌書房 3,850円

四月はいちばん残酷な月

田口哲也 圓月勝博 他著
水声社 6,600円

触媒総合事典

竹中社 他著 朝倉書店 14,300円

不倫

迫田さやか 他著 中央公論新社 902円

日本の対中大戦略

兼原信克 著 PHP研究所 1,078円

命か経済か

野田遊 他著 勁草書房 3,520円

フォローアップ行動論

松山一紀 著 中央経済社 3,080円

日本の経済外交

大矢根聡 編 大矢根聡 他著
勁草書房 5,280円

働く社会の変容と生活保障の法

土田道夫 他著 旬報社 7,700円

ライフサイクルと信仰の成長

越川弘英 他訳
日本キリスト教団出版局 3,080円

地理学事典

内藤正典 二村太郎 他著
丸善出版 26,400円

日本近代銀行制度の成立史

鹿野嘉昭 著
東洋経済新報社 5,500円

モノ・構造・社会の考古学

水ノ江和同 他著
今福利恵博士追悼論文集刊行委員会

ベンサム「公開性」の法哲学

戒能通弘 訳
慶應義塾大学出版会 9,240円

判例講義 民法II 債権 新訂第3版

荻野奈緒 他著 勁草書房 3,520円

ウクライナ戦争をめぐる

国際法と国際政治経済
浅田正彦 他編著 東信堂 2,860円

社会運動のグローバルな拡散

関口寛 他著 論創社 3,850円

スポーツにおける真の指導力

川井圭司 他著
エイデル研究所 2,200円

同志社精神を考えるために

川嶋四郎 木原活信 小原克博 林田明
深谷格 和田喜彦 他著
同志社大学良心学研究中心

国際関係史の技法

村田晃嗣 他訳
ミネルヴァ書房 3,520円

児童心理学・ 発達科学ハンドブック 第2巻 認知過程

嶋田容子 他訳
福村出版 220,000円

アジアのかたちの完成

村田雄二郎 他著 集英社 3,960円

アメリカ日本人移民 キリスト教と人種主義

吉田亮 著 教文館 5,940円

徹底討論! 問われる宗教と“カルト”

小原克博 他著 NHK出版 913円

災害・デジタル化・ 格差是正と税制のあり方

倉見智亮 他著
日本租税理論学会 3,080円

旅するナラティブ

大沼由布 他編著 知泉書館 4,950円

複数国籍

南川文里 他著 明石書店 3,520円

テキストデータマネジメント

波多野賢治 編 波多野賢治 他著
岩波書店 3,960円

SDGsと地域社会

峯陽一 他編著 明石書店 3,520円

同志社人 訪問

Interview
with
Doshisha
People

今回、メディア学科3年次生の堀琴葉さんが話を伺ったのは、文学部英文学科の卒業生であり、読売テレビ「かんさい情報ネットten.」のメインキャスターを務める中谷しのぶさんです。柔軟に司会役をこなし、最前線へと取材に赴き、さまざまなニュースを発信する報道番組の「顔」が持つ責任とは。伝えることへの思いとは。



ニュースの内容だけでなく 捉え方を、一例を挙げて提示する

堀：私はテレビ業界を志望しているので、今日のインタビューをとても楽しみにしていました！

中谷：堀さんもアナウンサーを目指しているんですか？

堀：アナウンス職も視野に入れつつ、番組制作に関わる仕事

がしたいと思っています。中谷さんは、何社くらいテレビ局の採用試験を受けられましたか？

中谷：読売テレビしか受けていないんです。そもそも私がアナウンサーを目指したきっかけは、高校時代に読売テレビの報道番組でメインMCだった横須賀ゆきのさんを見て、「アナウンサーって素敵な仕事だな」と思ったことなんです。だから、読売テレビのアナウンサーを目指したい、と思っています。

堀：読売テレビに入社されて12年ということですが、これまで一番印象深い出来事は何ですか？

中谷：山ほどあつて、どれをあげたらいいのか(笑)。でもやっぱり一番の転機は、2017年に「かんさい情報ネットten.」のメインキャスターに就任したことですね。記者をはじめ携わるみんなが人生を懸けて仕事をしている報道番組を背負う覚悟が問われました。また、「ten.」で女性のメイン

Interviewer

社会学部メディア学科 3年次生

ほり ことは
堀 琴葉さん

幼い頃からドラマやバラエティ番組を見ることが好きで、テレビ業界への就職を志す。大学進学後は、学生国際協力団体に所属し、また、同志社大学入学広報アンバサダーとしても活動。今年3月には成績優秀者として文学部・社会学部の父母会より表彰される。

今回の同志社人

読売テレビアナウンサー

なかたに
中谷 しのぶさん

1988年、兵庫県生まれ。同志社香里高等学校を経て同志社大学文学部英文学科卒業後、読売テレビに入社。アナウンサーとして数々の報道番組やバラエティ番組を担当し、2017年「かんさい情報ネットten.」、21年「ウェークアップ」のメインキャスターに就任。

キャスターは私が初めてだったので、会社としても新しい挑戦でした。

堀..それまでも「ten」ではサブキャスターを担当されていましたが、どんな変化があったのでしょうか？

中谷..一番大きいのはニュースの伝え方です。サブキャスターは基本的に、原稿を読む、というニュースの伝え方をします。でもメインキャスターはそれだけではなくて、ニュースについて見て聞いて感じたことを、自分なりのコメントに集約して締める役目も担っているんです。責任の大きさが変わったと感じますね。



堀..私も入学広報アンバサダーとして同志社大学のことを伝える活動をしています。生放送でニュースに自分の言葉を添えて伝えるなんて..想像できないプレッシャーです。

中谷..取材させて頂いた方やパネリストの方、解説委員、記者達..全員の思いを受けて紡ぎ出さないといけない言葉ですね。難しい分、そこに少しずつ自分の「カラー」がにじみ出る気がしています。

堀..中谷さんの「カラー」ですか。

中谷..もちろん勉強して知識を身に付けることも大切なんです。私は、一人の人間として感じる素朴な疑問も大事にするようにしています。その上で皆さんからお話をお聞きして、一例としての視点・視座を視聴者の皆さんに提示する、というのが私の伝え方です。

堀..先ほど、「ten」では初の女性メインキャスターだというお話もありました。未だに男性従事者の割合が高いといわれるテレビ業界ですが、女性だからこそ伝えられることもあるのでしょうか？

中谷..今年、女性目線の防災に関する企画を提案して、取材して放送にも至ったんです。..防災担当の部署に女性がいない自治体が、全国でまだ6割もあるんですね。男女共同参画の意識は浸透した、といわれる一方で、実態が伴っていないことをすごく実感しました。性別の垣根はないと思いますが、そういった課題も女性が発信することでより伝わることもあると思うんです。これから



入社以来、報道番組を中心に第一線で活躍。さまざまな現場に足を運び、取材、中継に臨み女性キャスターとしてのキャリアを築きながら、番組を支える「顔」として、日々新鮮なニュースを届けている。

失敗に自ら気づき、糧にする 良いルーティーンを構築する

堀..テレビ局での裏話などもお聞きしたいのですが..失敗談を聞いてもいいですか？

中谷..失敗は、いっぱいありますよね..(笑)。今でも夢に見るんですけど、サブキャスター時代、ニュースを読んでいたら次の原稿がない、ってことがありました。どこかに紛れてしまったのか、4枚目がない。文章の途中でページをめくったら、もう次のニュースで「あれ？」みたいな(笑)。

堀..それは生放送ですか？



中谷..「ten」の生放送です。フロアのスタッフが持っていた原稿を差し込んでくれて、何とか繋ぎましたね。あと、パネリストの方から発言を引き出して、時にはわかりやすく言い換えたり、フォローしたりするのもメインキャスターの役割なんです。が、うまくいかなかったなあと反省したり。でもモヤモヤするだけで終わらせずに毎回放送を見返して、言葉一つ、接続詞一つでも、より伝わる表現を考えて、次に生かすルーティーンを作るようにしています。

堀..勝手ながら、難なくお仕事をこなしているイメージがありました。努力の積み重ねがあつてこその中谷さんですね。
中谷..本当に、色んな反省の上に12年があるなあ、と思います。

何かに熱中する学生時代を きつとそれがあなたの強みになる

中谷..堀さんは、この冬から採用試験を受け始めるんですか？
堀..はい。中谷さんは採用試験に備えてどんな準備をされましたか？

中谷..それが、ほとんどしていません。学生時代は、とにかく英語とピアノ漬けの毎日でした。英語は幼少期に3年間ハワイに住んでいて、その時に培ったものをさらに生かしたいと思って英文学科で学んで。ピアノはコンクールに挑戦したり、ピアノサークルにも入って今出川キャンパスの寒梅館でコンサートを開いたり。あそこ、レトロな雰囲気ですごく素敵ですね。

堀..私、新町キャンパスなので知りませんでした。今度行ってみます！

中谷..あれ？ でも寒梅館って、新町キャンパスのすぐ手前だよ？ カフェが入っているの。

堀..ああ、アマーク！ 行ったことあります！

中谷..あの建物が、寒梅館（笑）。

堀..ああ…！
（同笑）

中谷..だから採用試験に向けては、読売テレビのインターンシップに参加した後、3ヶ月間



アナウンススクールに通ったくらいですね。でも身に付けた英語力は、エントリーシートや面接で自分のPRポイントになりました。それに入社後も海外取材で力が生かされているので、大学で英語をがんばって良かったな、と思います。

堀..今のお話を聞いて、就職先で生かしたい自分の強みとは何か、考えさせられました。

中谷..もう、ぜひ学生生活を謳歌してください。学生ならではの時間の使い方というか、私も行きたい海外に時間をかけて行ったりしましたし、サークル活動でも何でもいい。一つ極めて、自分で自信を持つて「これを頑張った！」って言えるものを作れば、それが自然に強みになっていくと思います。採用試験、がんばってくださいね！

堀..はい！ 今日ありがとうございます。

取材を終えて

Interviewer

堀 琴葉さん



「かんさい情報ネットten」にかける思いを直接お聞きし、メインキャスターを務める上での覚悟の大きさを感じました。伝わりやすく言葉を言い換えたり、誤解が生まれないように言葉を扱ったりすることは、非常に難しいと思います。画面越しでは気付けなかったテレビの仕事の大変さに気付き、また影響力の大きさを再認識する貴重な機会になりました。中谷さんのように、私も夢を叶えたいです。

My Purpose 挑戦する人

もりぐち すみただ
森口 澄士さん
商学部商学科
4年次生

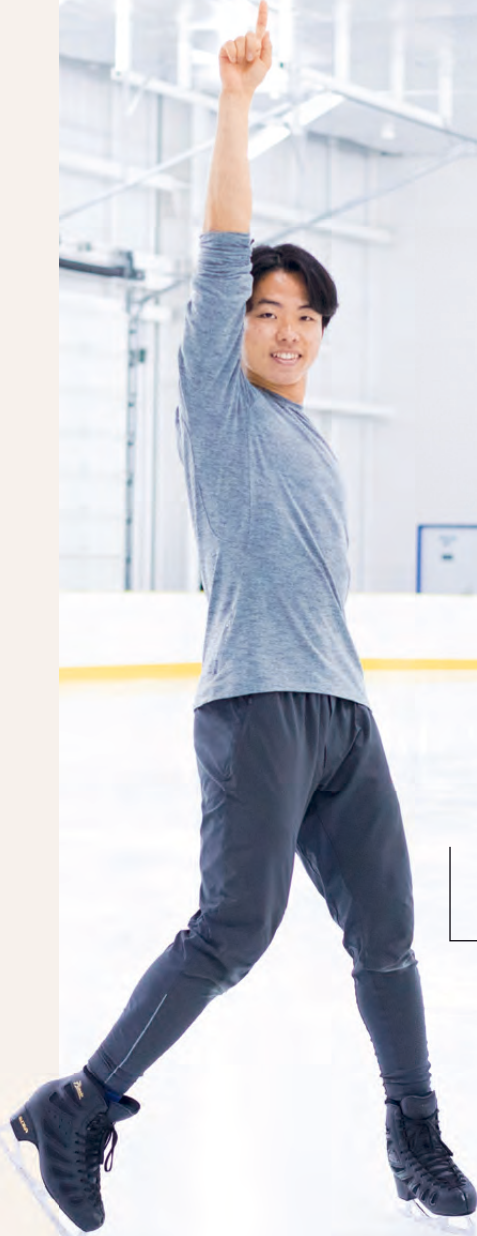
京都府出身。高橋大輔さんの活躍を見て、小学3年生でフィギュアスケートを開始。高さを活かした豪快なジャンプが得意で、体の強さはペアでも発揮される。現在の目標はペアでの五輪出場。

インタビュー動画も
チェック



まだ見ぬ景色を求め

誰もやらない挑戦を



あくなき探究心で 二刀流の道を選択。 困難を喜びの糧に

極めて異例の挑戦だ。フィギュアスケート部の森口澄士さんは、

シングルとペアの二刀流で自らの表現を突き詰める。個としての高い芸術性が求められるシングル、カップルを組む女子選手を持ち上げるに足る強靱なフィジカルが必要なペアとでは、競技の性格が大きく異なる。それゆえ、能力のあ

る選手でもどちらか一本に注力するのがフィギュア界の常識。もちろん、セオリー通りの選択を下したところで厳しい鍛錬を避けられないわけではない。そこへ学業やアールの形容も可能だが、なぜ森口さん

はあえて険しい道を歩むのか。「大きいリンクをぜひたくに使えるシングル、2人で滑る難しさを乗り越えて唯一無二の世界観を築き上げるペア、それぞれにしかない魅力がある。両方を知って初めてできる表現、相乗効果があると思うんです」。そう語る目は、清々しいまでの充実感に満ちている。

昨年開催された日本選手権では、村上遙奈選手とのペアで念願の優勝。当初の目標通りにノーマスで演技を終えると、人目もはばからずに涙した。「本番直前は自信と不安と緊張が入り混じっていました。でも、先生や家族が『あれだけ練習したのだから絶対できる』と。支えてくれた人にも努力が無駄ではなかったことを証明できて、自然と涙があふれてきました」。二刀流のどちらもおろそかにせず、一途に努力を重ねた先に見えた景色は、世界のトップ選手をしても決して見られないものだったはずだ。

地元愛も強い。同志社大学への入学を決めたのは、かねて交流のあったOBの笹原景一朗選手、友

野一希選手からの勧誘が直接の理由だが、生まれ育った地で小中高、そして大学と学び続けられることも大きかったのだという。商学部ではスケーターとしての選手寿命を考え、セカンドキャリアについて思索を深める毎日。自身を客観的にとらえる視点を持つ森口さんだが、目下の夢を問うとやはりアスリートらしく「2026年のミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪への出場」という答えが返ってきた。そこでの成績こそが、自らを育ててくれた京都という街への何よりの恩返しになる。1日たりとも無駄にできない研鑽の日々は、まだまだ続くことになりそうだ。



憧れの高橋大輔さん(左)と記念撮影。その背中を追いかけ、森口さんは成長してきた